

言語聴覚士

Speech Language Hearing Therapist

(1) 言語聴覚士とは	4 1
(2) 自立活動教諭（専門職）言語聴覚士の紹介	4 2
(3) 関わりの具体例	
実践事例 1 「国語（SST）にかかわる授業支援」	4 5
実践事例 2 「コミュニケーション手段への支援」	4 6
(4) 巻末付録（こんなことができます「教材・研修」・参考文献）	4 7

(1) 言語聴覚士（以下「ST」という。）とは

ことばやコミュニケーション・食べる力を育むための支援を行います。

幼児・児童・生徒（以下「子ども」という。）が、安心して双方向のコミュニケーションをとり、自己表現ができるように、また、楽しいコミュニケーションをとりながら、安全に食事を食べていけるように、具体的な支援方法を担任等と一緒に考えます。

- ST は、人とのコミュニケーションや、ことばの発達に加え、それらに関わる事柄について、支援を行います。難聴などの「きこえ」の問題や、構音障害（発音の障害）、吃音といった話し言葉の問題についても支援を行います。
- コミュニケーション、ことばや口腔機能の発達などに関わる食べる力（摂食・嚥下）についても支援を行います。
- 行動観察や検査などのアセスメントを通して、子どもの実態や環境を分析し、具体的な支援方法について担任等と一緒に考えます。

(2) 自立活動教諭（専門職）言語聴覚士の紹介

➤ こんなときは声をかけてください

① コミュニケーション

要求場面（休み時間や個別課題の時間など）、1日を通しての生活場面など

たとえば・・・

- ☆要求やヘルプを伝えて欲しいが、どのように指導するといいか。
- ☆担当している子どもにとって一番いいコミュニケーション手段は何か。
- ☆パニックになることが多いが、コミュニケーションを一緒にみて欲しい。
- ☆場面に合わせたことば遣いを身につけるにはどうしたらいいか。

人との関わりをどうしたらよいか、集団生活の中でどのように行動すればよいか、などを担任等と一緒に考えていきます。



《相談例：状況が分からず、他害が出るA児について》

分からないことを上手く伝えられず、他害行為に出る。STは改めて、理解の程度を個別に評価した。その後、Aが理解しやすいように、スケジュール等の環境整備を行った。また、終了が分かりやすいように、タイムタイマーの利用も行った。

さらに、ヘルプの出し方の学習として、担任の肩を叩くように練習を重ねた。

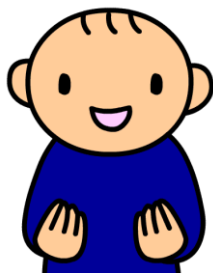
② ことばの発達

国・数の時間、個別課題の時間、朝の会や帰りの会、授業全般における指示の出し方など

たとえば・・・

- ☆場面に応じた行動は増えてきたけれど、ことばの理解はどうか。
- ☆どんな理解の仕方をしているのか。
- ☆どういう表出方法が得意なのか。
- ☆音声表出を広げるにはどうしたらいいのか。
- ☆他の力に比べて読み書きが苦手だ。
- ☆人の話をきくことが苦手だがどうしたらいいのか。

全体的な発達を踏まえて、ことばの発達について考えていきます。どのような関わりが、次のステップへの発達につながるか、そのための教材や方法を担任等と一緒に考えていきます。また、AAC（補助代替コミュニケーション手段）などのコミュニケーションツールについても一緒に考えていきます。



《相談例：ことばの発達を促す関わりについて》

学年が上がり、コミュニケーション態度も含めて自発的なかわりが出てきた。音声での理解をしている部分も見受けられるが、音声が出ない。今後の関わりについて知りたい。STは現在の関わりの中で良い面を整理し、担任に伝えた。また、音声とともに現在使用できているサインでの表出も併用していきながら、声を出す経験を重ねていく方向性を確認した。

③ 食事（摂食・嚥下）

給食場面、水分補給の場面、個別の時間での取り組みなど

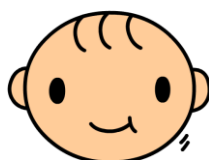
たとえば・・・

- ☆食事場面でむせることが多いけれど、どんな対応をしたらよいか。
- ☆食べこぼしがあるが、口の動きを見てほしい。
- ☆いつも丸のみで、噛むことが下手だと思うがどんな対応をしたらよいか。
- ☆よだれを減らしていくにはどうしたらよいか。
- ☆安全に食べる（誤嚥を予防する）ために、共通理解したほうが良いことはどんなことか。



「食べ物を見て、口まで運ぶ」「口に入れる（取り込み）」「咀嚼（モグモグ）」「嚥下（ごっくん）」の食事の一連の流れの中でどの部分に課題があるかを見ていきます。そしてより安全に楽しく食べられるような工夫と一緒に考えていきます。また、“発話につながるための食事”としてプレスピーチの観点からも様子を見ていきます。

《相談例：偏食のAさんの場合》



給食場面において、少しずつ食べられる物を増やしていくように取り組む。STは言語理解の段階と、手立てのアイデアを担当等と共有した。日常生活では、実物や実際の行動で理解している。好きなものと苦手なものを実物で交互に提示したことで、苦手なものを食べれば好きなものを食べることができることを理解できた。そのことにより食べられるものが増え、実際に苦手なもののはっきりしてきた。

④ きこえ

生活場面や授業全般における指示の出し方、教室の環境調整など

たとえば・・・

- ☆学校での補聴器の管理や教室環境の整え方について知りたい。
- ☆きこえにくいことに対して日常や授業での関わりで気をつけた方が良いことは何か。
- ☆現在のコミュニケーションやことばの発達について一緒にアセスメントしてほしい。
- ☆聴覚障害のある子のことばの発達を広げるにはどうしたら良いのか。
- ☆聴覚障害のある子が将来に向けて、本人が学んでおいた方が良いことは何か。
- ☆どれくらいきこえているのか。
- ☆補聴器等の扱い方を教えてほしい。

ことばの発達やコミュニケーションに大きく関わる「きこえ」への視点を交えながら、担任等と一緒に支援について考えていきます。



《相談例：両耳補聴器を装着している生徒》

きこえについては、1対1の対話では大きな支障はないが、音楽の授業や大きな声は苦手で、授業に入れないことがある。また、生徒同士でのコミュニケーションのトラブルもある。STは改めて補聴時の大きな音の辛さや語彙の少なさ、複数でのコミュニケーションの難しさ等を確認し、クラスでの環境の調整に加え、ことばの意味の確認、コミュニケーションスキルの指導を丁寧に実施していく方向を担当と共有した。

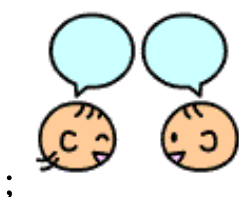
⑤ 発話・声・吃音

日常生活場面や授業場面、個別の学習の時間など

たとえば・・・

- ☆発音が不明瞭だが、どのように支援していけばよいか。
- ☆話したい意欲はあるが、何を言っているか分からない。
- ☆「あ」とは言うが、今後どのように伸ばしていけばよいか。
- ☆声の大きさが小さい・大きい。今後どのような支援を行えばよいか。
- ☆吃音がある子のために、どのような環境を整えたらよいか。

全体的な発達、ことばの発達とともに、社会への適応を考慮しながら、口の動きや不明瞭な音に対して個々に応じた支援の方法を一緒に考えていきます。



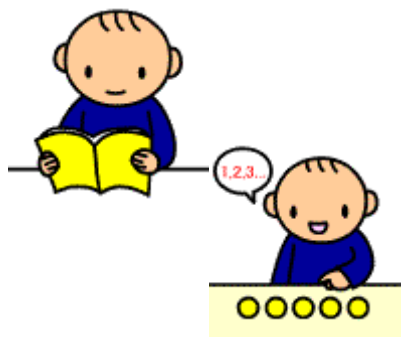
《相談例：不明瞭な発話の児童》

要求を口頭で伝えているが発話が不明瞭で伝わらない。伝わらないことにイライラしたり、あきらめたりすることが増えている。STは、発達や発音に使う器官の運動・感覚の評価を行い、練習内容についての助言をした。さらに、伝わる手段の獲得と伝わらない経験を軽減するためにサインやカード等の補助手段を検討し、学校と家庭が連携して日常の中で活用できるようにした。

⑥ その他

たとえば・・・

- ☆発達段階を知りたい。
- ☆指導で改善するものか知りたい。
- ☆課題のレベルは適切か。
- ☆どうやったら学習に繋がりがやすいのか。
- ☆個別教育計画を作成するとき、参考意見が欲しい。
- ☆学校生活で参考になることがあれば知りたい。



⑦ 本人・家庭より

家庭から・・・

- ☆家庭での対応方法を知りたい。
- ☆ことばの発達の段階について知りたい。

本人から・・・

- ☆ちょうどよい声の出し方や場面に応じた話し方が分からない。
- ☆みんなからことばのことでからかわれる。
- ☆吃音があるが、面接等でどうしたらよいか。
- ☆きこえのことについて、クラスみんなに理解してもらいたい。



(3) 関わりの具体例

実践事例1 知的障害教育部門 「国語にかかわる授業支援」

 **キーワード**
国語 授業支援

【対象】 知的障害教育部門高等部2年 基礎グループ (国語)
知的障害、自閉症、ダウン症などさまざまな障害種の生徒10名が所属するグループ。
担当教員は各クラスから1名ずつの計4名で構成されている。

【主訴】 進路先を見据えて、人とのやりとりの中でパターン的な挨拶語（「おはようございます、ありがとうございます、失礼しました、すみません、さようなら」）を定着させたい。

【STの見立て・アセスメントの視点】

- 10名の生徒の日常表出手段は、発声、決まった発語(単語レベル)、ジェスチャー、トーキングエイド、エコラリアによる発話が主である。
- 日常の挨拶は、数回のうながしで可能な生徒が多いが、自分からは出てこない。
- コミュニケーションとしては受身で、興味のあること以外の発信は少ない。
- 指示理解は、手順表やモデルを示すことで可能。
- どの生徒も、評価シールと教員からのコメントが励みになるタイプである。

【方針（担任と確認した事項）】

- ◇ターゲット語を2語決め、その2語の定着を全4回でねらう。
- ◇次の授業までの間に30分程度の打ち合わせ時間を設け、振り返りと次に向けての確認をする。
- ◇教材についても担当教員間で確認・分担し、次の授業までに各自作成した。
- ◇個々の生徒の表出能力に応じた挨拶の方法を担当者全員で共有した。
- ◇STが授業全体を客観的に評価する。
- ◇使用した教材や授業案などはファイリングしておき、他の教員もコピーして使えるようにする。

【支援の実際】

- 担当者①：授業進行と自作教材を用いた全体への説明を行う。ターゲット語の練習場面ではやりとりの相手役となった。
- 担当者②：担当者①と担当生徒とのやりとりを見守り、時には見本を見せたり、促したりする。
- ST：授業全体を参観し、気付いたこと等を記録しておき事後の振り返りの際の資料にする。個々の目標設定を個別教育計画に反映しやすいように働きかける。
- クラス担任：グループに所属する担当教員から、各クラスの他の教員へ情報共有し、日常場面の般化・定着をねらう。

【成果】 全4回(約1ヶ月)後、グループ担当教員とSTで全体のまとめを実施した。

- 10名全員が、個々の表出能力に合わせた方法で、ターゲット語とした2語が表出できるようになった。
- グループ担当教員4名が共通認識をもって、授業や課題に取り組めた。
- 毎回、振り返りを行うことで個々の生徒の達成状況と次の課題が見えてきた。
- クラス担任にも情報共有することで、日常場面でも促してもらえようになり、より定着度が増した。
- 使用した教材をファイリングし、学年・学部で共有することで、翌年度の教員も継続した学習内容を実施できた。



使用した教材例

実践事例2 知的障害教育部門

「コミュニケーション手段への支援」



キーワード

コミュニケーション
視覚的手段

【対象】 知的障害教育部門小学部 4年生 ダウン症

【経過】 座位2歳。始歩4歳。生後6ヶ月より療育センターの通園に通う。2歳から週2日の通園と週3日の保育園。幼児期に簡単な指示であれば応じることができ、自分からトイレサインを出すこともできたが、その他のサイン、音声言語表出はないまま就学。中耳炎の既往はあるものの、顕著な聴力低下はない。

【主訴】 ある程度の理解はあるようだが、ことばが出ない。本人からの発信がなく、受け身になってしまうことが多い。言語やコミュニケーションの力を伸ばすにはどうしたらよいか。

【STの見立て・アセスメントの視点】

- 基本的な言語概念はあり、いくつかの身近なものや人の名前は音声言語で理解できているが、動作語や2語文の理解は難しい。
- 音声言語での指示に対して、日常生活では言語情報だけでなく、相手の様子や状況などの非言語情報から判断して行動している。
- 聴覚的記憶力が弱く、視覚情報を手がかりにして生活している。絵のマッチングは簡単な形であれば、可能であり、本人の取り組みもよい。
- 楽しく遊んでいる時でも発声行動に乏しく、音声言語を模倣しようとすることもない。一方で、音楽に合わせた踊りを真似たり、物の操作をお手本通りにできたりするなど、音声以外の模倣能力は優れている。
- 他者への興味も旺盛で、アイコンタクトも取りやすいなど対人関係能力は良好である。
- 発信行動がないだけでなく、活動全般において促されるまで待っている場面が多い。

【方針（担任と確認した事項）】

- ◇音声言語にこだわらず、本人に合ったコミュニケーション手段を導入する。
- ◇言語・非言語を問わず、本人が自分から発信・行動を起こせる場面を設定する。

【支援の実際】

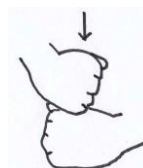
- 学校
 - ・日常的に使う言葉にサインを併用して教員が使ってみせる（教員や児童の名前、日課活動などを朝の会で、教員が必ず使う）。
 - ・本児が真似た動作やサインを、繰り返し教員もやって見せ、模倣すること自体を楽しませる。
 - ・給食メニューの絵カードを作り、給食のときに食べたいものを指さして要求させる。
- 家庭
 - ・学校で使っているサインを写真に撮り、家庭にも伝える。
 - ・家庭で本児がサインを使ってみせることがあったら、その場で模倣したり、話しかけをしたりしてもらう。

【成果】

- ・朝の会の時に教員と一緒にサインを表出するようになった。
- ・授業中、活動している級友の名前をサインで教員に伝えるようになった。
- ・給食のときに食べたいもののカードを指さして要求するようになった。
- ・家庭で、その日にやった授業のサインをやって見せるようになった。

☆コミュニケーション意欲が高くなり、積極的に自分から伝えようとする場面が増えた。

サインの例「図工」



上の拳で下の拳を叩く

(4) 巻末付録

① こんな教材を紹介できます！！

- コミュニケーションに使うもの
- 口や舌を使う遊び
- 国語や算数・数学の時間に使う教材
- 個別課題の教材
- 家庭で取り組める教材
- *その他、児童・生徒に合わせた教材を一緒に考えていくことができます。



② こんな研修できます！！

(例えば…ことばの発達、きこえについて、補聴器・人工内耳について、発音の不明瞭な子どもへの指導、学習につまずきのある子どもへの指導など)

ことばを発するまでの仕組み

音声器官

正確に発音するためには？

- 口唇や舌を動かす
- 音を聞き分ける
- 聞いた音を記憶する

あめ かめ！？

ことばとは・・・

- ・話す、書くなどの行為によって情報の伝達手段となりうる、意味があるものの総称

音声言語 文字 手話 点字
ジェスチャー マカトン PEGS ...など を含む

- ・そのことばを相手とのやりとりで使うことを「コミュニケーション」

③ 参考になります！！

- 「ことばの遅れのすべてがわかる本」 中川信子監修 講談社 (2006)
- 「ことばの育み方」 中川信子 NHK出版 (2010)
- 「ママが知らなかった おっぱいと離乳食の新常識」 中川信子監修 小学館 (2010)
- 「視覚シンボルで楽々コミュニケーション」 ドロッププロジェクト 筒井書房 (2010)
- 「なゆたのきろく：吃音のある子どもの子育てと支援」 阿部法子、坂田善政著 学苑社 (2015)
- 「わかってくれるかな、子どもの高次脳機能障害」 太田玲子編 クリエイトかもがわ (2014)
- 「なっちゃんの声～学校で話せない子どもたちの理解のために～」はやし みこ 文と絵 金原洋治 医学解説 かんもくネット監修 学苑社 (2011)
- 「遊びながら学ぶ 発音・発声、ことばの指導」 梅崎祐司著 明治図書出版 (2009)

今回の挿絵のイラストをお借りしています！

